TTC ゆった～り山行実施記録表　2017 年5月 28 日　報告者:　Y.M

山行名	熊野古道ウォーキング＆熊野三山詣　［和歌山県］
実施日	平成 29 年 5 月 17 日(水)～19 日(金)　2 泊 3 日　　公共交通機関利用
天候／参加人員	天候：晴れ　　レベル：★☆　参加者:申込 9 名/実施 8 名（男 2 名／女 6 名）
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	CL/計画:、SL:、会計:、救護:、写真:
参加メンバ	スタッフ省略
費用 **一人；46,579 円** (小田原起点:JR ｼﾞﾊﾟﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ 30%割引利用) ｶﾝﾊﾟ金 783 円	**４６，５７９円（交通費￥24,845+宿泊費￥21,284+その他通信費･ｶﾝﾊﾞ金等¥548）** 交通費　JR(ｼﾞﾊﾟﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ 30%割引利用)往路乗車券(小田原ー新宮)@6,020、新幹線座席指定（小田原-名古屋）@2,700、ﾜｲﾄﾞﾋﾞｭｰ南紀特急座席指定(名古屋-新宮)@1,760,帰路乗車券(紀伊勝浦-小田原)@8, 010、ﾜｲﾄﾞﾋﾞｭｰ南紀特急座席指定(紀伊勝浦-名古屋)@1,760、新幹線座席指定(名古屋-小田原)@2,700／JR 乗車券計@21,190（1 名は 20%割引@23,560)、熊野交通ﾊﾞｽ 3 日間ﾌﾘｰﾊﾟｽ@3,000、龍神交通ﾊﾞｽ（湯の峰温泉-発心門王子：¥3680/8 人）@460, ﾀｸｼｰ代（新宮駅-速玉神社：780x2 台）@195／**交通費合計:@24, 845**、宿泊費　湯の峰温泉よしのや（¥77,950/8 人）@9､744、勝浦温泉ﾎﾃﾙ浦島(¥92､320/8 人)@11,540／**宿泊費合計@21,284**、その他　温泉ｺｰﾋｰ代@200, 通信費(¥2000/8 人)@250、ｶﾝﾊﾟ金(783/8 人)@98／**その他費用合計@548／一人当り費用合計 46, 579(JR30%割引利用)、** **一人当り総費用:JR30%割引利用(7 名)@46, 579、JR20%割引利用(1 名)@48, 949**

所要時間 *当初計画。実行時歩行を一部短縮	5/17(水)　新宮ー熊野速玉大社-神倉神社-湯の峰温泉よしのや/歩行距離:約 1.5km		5/18(木)　発心門王子-熊野本宮大社-大斎原-勝浦温泉ﾎﾃﾙ浦島/歩行距離:約 8km		5/19(金)　大門坂-熊野那智大社-西岸渡寺ー那智の滝ー紀伊勝浦/歩行距離:約 2.5km	
	歩行時間	行動時間	歩行時間	行動時間	歩行時間	行動　時間
ガイドブック	1:20	ー	2;18	-	0:52	ー
計画	1:25*	2:15*	3:10*	5:05*	1:00	1:40
実行	**0:55**	**1:29**	**3:15**	**4:43**	**1:15**	**2:03**

コースタイム

◆5/17(水) 天候:曇時々晴/気温 max22℃（行動時間　1:29　／歩行数～6，500歩）

小田急線(集合 7:50)　ひかり 503/ﾜｲﾄﾞﾋﾞｭｳｰ南紀 3 号/ﾀｸｼｰ　0:13　0:19　0:17　0:06

本厚木＝＝小田原＝＝名古屋駅＝＝＝＝新宮駅＝＝熊野速玉大社――神倉神社石段下――神倉神社――石段下･ﾄｲﾚ――

7:05　7:48/8:08　9:17/10:01　13:37/13:47　13:55/14:13　14:26　14:45/15:10　15:27/15:36

熊野交通ﾊﾞｽ　0:10

裁判所前ﾊﾞｽ停＝＝＝湯の峰温泉ﾊﾞｽ停―――よしのや(泊)　夕食 18:30～/女性 3 名は「つぼ湯」へ

15:42/16:02　17:15　17:25 着

◆5/18(木) 天候:終日晴/気温 max23℃（行動時間4:43／歩行数～20，000歩）

朝食 7:00～　0:02　龍神バス　0:07　(ﾄｲﾚ休)　0:30　0:47 (CoffeeBreak) 1:10　0:05

よしのや――湯の峰温泉ﾊﾞｽ停＝＝＝発心門王子ﾊﾞｽ停――発心門休憩所――水呑王子――伏拝王子――祓殿王子――

8:03　8:05/8:24　9:00/9:17　9:24/9:28　9:58/10:10　10:57/11:17　12:27

0:13　(昼食:焼肉・ｻｰﾋﾞｽﾗﾝﾁ) 0:08　0:05　熊野交通バス　(ﾊﾞｽ乗継)　熊野交通　0:08　渡船

熊野本宮大社――食事処「しもじ本宮」――大斎原――本宮大社前ﾊﾞｽ停＝＝新宮駅前＝＝紀伊勝浦駅――勝浦港船着場～～

12:32/12:45　12:58/13:37　13:45/13:55　14:00/14:10　15:34/16:00　16:45　16:53/17:00

ホテル浦島本館(泊)　夕食バイキング 18:30～/湯巡り

17:05 着

◆5/19(金) 天候:終日快晴/気温 max24℃（行動時間　2:03　／歩行数～10，000歩）

朝食 6:40～　渡船　0:08　熊野交通ﾊﾞｽ　0:34　(ﾄｲﾚ)　0:15　0:02　0:20

ホテル浦島～～～勝浦港――勝浦駅前ﾊﾞｽ停＝＝大門坂ﾊﾞｽ停――那智大社観光ｾﾝﾀ――熊野那智大社――青岸渡寺――

7:25/7:33　7:37　7:45/8:25　8:46/8:54　9:28/9:35　9:50/10:00　10:02/10:10

0:04　熊野交通ﾊﾞｽ　0:02　(昼食:ｶﾚｰ/買い物)　ﾜｲﾄﾞﾋﾞｭｰ南紀 6 号/ひかり 528/小田急線

那智の滝――那智の滝前ﾊﾞｽ停＝＝勝浦駅前――喫茶「サカエ」――勝浦駅＝＝名古屋駅＝＝小田原駅＝＝本厚木

10:30/10:43　10:47/11:06　11:38　11:40/12:00　12:24　16:10/17:26　18:34/18:47　19:30 着

◆計画立案段階：熊野古道を歩きたいというシニアメンバからのオーダに、私が計画を担当することになった。名古屋から三重県を南下して、紀伊半島南部に列車でアクセスするのに、片道6-7時間を要し、直通で行ける列車は、１日３便しかない。大阪から和歌山回りで行くルートは、１日6便有るが、大阪を経由する分、時間も運賃も余分にかかりメリットがない。当初、平安時代以来の京から熊野古道参詣のﾒｲﾝｺｰｽであった和歌山県西海岸の田辺から中辺路を辿って、熊野本宮大社まで、延べ20時間余り歩いて熊野本宮大社に至る本格的な熊野古道巡りを考えたが、丹沢主脈を縦走するのと大差ないﾊｰﾄﾞｺｰｽである上、現地までのｱｸｾｽに半日を要することから、このｺｰｽを歩くだけでも、3泊しなければならないことからあきらめた。希望者の大半が熊野三山にお参りしたことがないようなので、早朝/深夜の行動を避けた日中2泊3日行程で、三山詣を優先し、熊野古道は、各大社近くの熊野古道のﾊｲﾗｲﾄ部分のみを歩いて往時の雰囲気を味わう程度に留める方針に変更した。また、熊野三山の正式な参拝順路は、熊野本宮大社→熊野速玉大社→熊野那智大社だが、順番にこだわると行程がｽﾑｰｽﾞに組めないことから、こだわらないことにした。また、平安時代以前から熊野詣での湯垢離場であった世界唯一の世界遺産温泉で、開湯1800年の日本最古の温泉「湯の峯温泉」に1泊することを基本とし、現地熊野本宮大社観光協会で紹介を受けた数軒の旅館の中から、「つぼ湯」に近くて評判の良い「よしのや」に1月末頃に電話予約。2泊目はﾀｲﾌﾟが全く異なる勝浦最大の温泉ﾘｿﾞｰﾄﾎﾃﾙ「ﾎﾃﾙ浦島」を予約。JRによる移動はｼﾞﾊﾟﾝｸﾞｸﾗﾌﾞの30%割引、現地での5000円に及ぶﾊﾞｽ移動の費用は、現地熊野交通の3日間ﾊﾞｽﾌﾘｰﾊﾟｽ(3000円)を利用するなど、できるだけ費用を抑える工夫もして、2月上旬にようやく計画書が完成した。3月例会で募集したところ9名が手を挙げたが、1名がキャンセルとなり、男2/女6の8名で実施する運びになった。

◆5/17(水)：小田原駅新幹線改札口前7:50amに8名が集合し、8:08発のひかり503号の指定席に乗車して名古屋駅に。約40分待って、特急ﾜｲﾄﾞﾋﾞｭｰ南紀3号に乗り換えて新宮に向かった。新幹線のぞみの特急券はｼﾞﾊﾟﾝｸﾞｸﾗﾌﾞの割引対象外のため、東海道新幹線の特急料金の割引を受けようとすると、利用できる新幹線がかなり限定されてしまう。特急「ﾜｲﾄﾞﾋﾞｭｰ南紀3号」は4両編成で、JR関西本線で四日市の2駅先の河原田駅まで走り、ここから私鉄伊勢線に入って津駅迄走り、津から単線のJR紀勢本線を松阪経由で、紀伊半島の東側をひたすら南下し、名古屋から約3.5時間を要して、下車駅となる熊野川右岸河口の和歌山県新宮駅にようやく1:37pm到着。それにしても、ﾜｲﾄﾞﾋﾞｭｰ南紀の車内の揺れはﾊﾞｽ並みの相当ひどい揺れだった。

新宮駅前には熊野交通ﾊﾞｽの本社があり、事前に情報収集の電話をした際、3日間有効のﾊﾞｽﾌﾘｰﾊﾟｽの利用を勧められた。このﾌﾘｰﾊﾟｽの存在は、熊野交通のHPには掲載されていない情報で、ﾊﾞｽ移動だけで5000円超の料金を要するので、経費削減に大いに役立つ。熊野本宮大社付近を通るﾊﾞｽ路線には、4社の路線ﾊﾞｽが走る地域であり、乗客囲い込みのため、こんなｻｰﾋﾞｽをはじめたものと想像される。熊野交通のﾊﾞｽを選んで乗る必要はあるが、利用者にとっては有り難い値引きｻｰﾋﾞｽだ。本日これからの予定は、熊野速玉大社に参拝した後、熊野最大のﾊﾟﾜｰｽﾎﾟｯﾄ「神倉神社」に参拝してから、ﾊﾞｽで湯の峯温泉に移動し、1泊する行程である。途中乗車のﾊﾞｽ停の位置と発車時刻を確認し、TTCﾒﾝﾊﾞ8人が確実に途中乗車できるようにするため、もしもの際の連絡先として、CLの名前と携帯電話番号をﾒﾓにして、我々が乗車予定のﾊﾞｽの運転手にこのﾒﾓを渡してもらって、8名が確実に「裁判所前ﾊﾞｽ停」から途中乗車したことを確認していただくよう内勤の女性社員にお願いした。

いずれにしても、今から湯の峯温泉行のﾊﾞｽに乗車するまで約2時間と、時間的余裕が余りないことから、SLと相談して、ここから20分歩いて速玉神社まで行く予定をﾀｸｼｰ利用に変えた。ﾀｸｼｰ2台に分乗し、新宮(丹鶴)城趾の石垣を右手に見ながら、約5分で速玉大社に到着できた。権現山の山際の平地に立つ熊野速玉大社の社殿は昭和28年に再建されただけあって、朱色が鮮やかである。祭神は熊野速玉大神(ｲｻﾞﾅｷﾞﾉﾐｺﾄ)と熊野夫須美大神(ｲｻﾞﾅﾐﾉﾐｺﾄ)を中心に、12柱の神々(新宮十二社大権現)が祀られている。速玉大社は本殿より、参道に聳える樹齢約1000年のご神木「梛(ﾅｷﾞ)の大樹」(樹高18m、幹周り約4mの国指定天然記念物)が有名である。

平清盛・重盛親子が平治元年(1159年)に熊野詣のため、紀州路の切目王子（和歌山県印南町）まで来たときに、源義朝の挙兵(平治の乱)を知って、参詣を諦めて京に取って返して、見事にこの乱を鎮圧、大勝利をおさめた。この際、切目王子の社に戦勝祈願をし、熊野大社のご神木梛の葉を鎧の袖にさして攻め上っての大勝利。これも熊野権現のご加護と感謝し、後日重盛自らが速玉大社の境内に植えた梛の木が、樹齢千年のご神木のようだ。その後、この故事にあやかって、速玉大社に参拝し、境内の梛のご神木の葉を持ち帰る習わしができたという。我々も、境内で餅菓子「もうでもち」を売るおばさんから、お餅を買って、新鮮な梛の枝をいただき、その葉を分け合って持ち帰ってきた。もっとも、新宮市内には街路樹として梛の木があちこちに植えられており、いただいた切り立ての梛の葉は、ご神木の葉ではなく、十中八九街路樹の梛の葉だと推察される。

速玉大社の参拝を早々に済ませ、我々は東に約1kほど行った、標高約100mの権現山中腹の大岩「ｺﾞﾄﾋﾞｷ岩」を御神体とする神倉神社(主祭神は天照大神)の参拝に向かった。赤い鳥居を潜った先に、源頼朝寄進の538段の急な石段を息を切らせながら約20分を要して登りきった展望の良い露岩の上に不安定な形で花崗岩の大岩「ｺﾞﾄﾋﾞｷ岩」が乗り、それを支えるように朱色の神倉神社の社があった。地元ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｶﾞｲﾄﾞの説明によると、熊野本宮大社が三山の本宮になっているが、熊野の神々は、まずこのｺﾞﾄﾋﾞｷ岩に降臨し、その後、熊野の神々は、景行天皇の時代(西暦71-130年)に速玉大社、本宮大社、那智大社の各大社にお渡りになったという伝承が有り、その伝承に従えば、熊野の神々の元宮はこの神倉神社ということになる。従って、神倉神社は熊野では特別な聖地であり、神宿る「ｺﾞﾄﾋﾞｷ岩」は日本有数のﾊﾟﾜｰｽﾎﾟｯﾄだという。この岩からﾊﾟﾜｰを分けてもらうためには、ｺﾞﾄﾌﾞｷ岩に触りながらの特別な作法が必要とのｶﾞｲﾄﾞさんの教えに従って、作法に則ったﾎﾟｰｽﾞを採って、ﾒﾝﾊﾞ全員が熊野権現のﾊﾟｰﾜｰをいただいて、清々しい気持ちになって下山にかかった。

余裕をもって「裁判所前ﾊﾞｽ停」に到着し、予定していた熊野三湯経由熊野本宮大社行のﾊﾞｽに無事乗車し、乗車確認をお願いしてあったﾊﾞｽ運転手にお礼の挨拶をした。2名ほどはすぐに座れなかったが、雄大な流れが続く熊野川の景観を眺めながらの約1時間のﾊﾞｽの旅を楽しんで、目的の湯の峯温泉に到着。川沿いにある世界遺産「つぼ湯」や高温の温泉が自噴している「湯筒」、東光寺、公衆浴場等を見学しながら、予約しておいた「旅館よしのや」の和室3部屋に落ち着いた。よしのやは、部屋数8室、宿泊定員20名で、40代のご夫婦2人で切り盛りしている小さいながら雰囲気の良い小旅館だ。本日の宿泊客は、TTC8人の他、日本人とｵｰｽﾄﾗﾘｱ人のｶｯﾌﾟﾙが1組ずつの12名。泉質は含硫黄ﾅﾄﾘｳﾑ・炭酸水素泉(PH7.2)のお肌すべすべの源泉掛け流しで、24時間入浴可能な内風呂と露天風呂があり、早速内風呂で汗を流した。折角の源泉掛け流しの湯を水で薄めなくて済むよう、湯もみ板で湯温を下げてから浴槽に入った。6:30pmからの夕食のメニューは、地物の生マグロのお作り、天然鮎の塩焼き、串揚げ、煮物等々、個室でゆっくり美味しくいただいた。

夕食後には、TTC女性陣3名は、地獄に落ちた小栗判官をこの湯で49日湯治させたところ、息を吹き返し、もとの小栗判官の姿に戻ったとの言い伝えが有り(小栗判官の墓所は藤沢市の時宗総本山遊行寺にある)、多くの上皇や法皇等の皇族や貴族、和泉式部等の女官達も湯垢離したと想像される「つぼ湯」(谷間に湧き出す天然の岩風呂で世界遺産に指定)に入浴に行った。公衆浴場の受付で770円を払ってｴﾝﾄﾘｰし順番待ちする。1ｸﾞﾙｰﾌﾟ30分貸し切り制で、女性なら3～4人入れる。この夜、男性2名は旅館の露天風呂にゆっくり浸かった。この夜つぼ湯にtryしなかった残りのTTC女性陣3名は、まだ誰も入浴していない翌早朝、つぼ湯を見学した。

◆5/18(木)：温泉で炊いた朝がゆや温泉卵を美味しくいただき、田辺から中辺路沿いに約2時間走ってきた8:16発/発心門王子行の龍神ﾊﾞｽに乗車して、終点まで約30分で到着。1日3本のﾊﾞｽは満員で、外国人もかなり多く、ご主人の退職を機に日本に約4ヶ月滞在し、日本各地を巡っているというﾄﾞｲﾂから来た陽気なご夫婦もいた。

貴族や皇族による熊野詣でが盛んに行われた平安・鎌倉時代には京を出発し、紀伊路、中辺路を辿って熊野本宮大社。熊野川を船で下って速玉大社を参拝し、陸路を辿って、那智大社と青岸渡寺に参拝する熊野参拝道には、熊野権現の御子神・分身として、また、休憩所も兼ねた九十九王子社が設けられていた。江戸時代になって、熊野詣が衰退し、王子社も姿を消してしまったが、紀伊藩が熊野参詣道を整備・維持に努め、王子跡には石碑を立て、道しるべとしたものが、現存する王子跡の石碑だという。その中で、熊野本宮大社の御神域の入口に位置する発心門王子には、小社と立派な鳥居が残り、往時の面影をよく留めているという。鳥居前の広場で、ｽﾄﾚｯﾁをして良くｳｫｰﾑｱｯﾌﾟし、清水で喉を潤してから、約7km先の熊野本宮大社を目指し出発した。ちなみに、発心門王子から本宮大社に至る中辺路は、よく整備された人気のｺｰｽで、歩く人も多い。

最初は人家が点在するｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝの少ない舗装道の歩行が40分ほど続き、眺望が開けて、累々と重なる果無山脈の山並みを左手に眺めながら進むと、白色の平屋の建物と広場が現れ、その一角に弘法大師が杖で地面を突くと水が湧き出したとの言い伝えがある水呑王子の苔むした石碑に出会う。かって、小学校の分校が有り、廃校後に、ﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰを営業する施設として、2年ほど営業していたが、今は無人の廃墟。ﾃｰﾌﾞﾙと椅子が当時のまま残っており、そこでｴﾈﾙｷﾞﾁｬｰｼﾞを兼ねて一休みした。

水呑王子を出発すると、鬱蒼とした杉林の木漏れ日の中の緩い下り基調の土の道を25分ほど歩くと、再び登り基調の舗装路になり、舗装路が右に大きく曲って登り坂となる手前で、小高い峠に通じる細い山道をひと登りすると、大勢のﾊｲｶｰが休憩中の伏拝王子休憩所に到着した。土日中心の営業だという売店は、平日のこの日も営業中で、休憩卓に陣取り、湯の峯温泉の温泉で煎れた名物のｺｰﾋｰを注文して、美味しくいただいた。休憩所前の高台に登ると、谷間の彼方に熊野本宮大社旧社地「大斎原」(おおゆのはら)のｼﾝﾎﾞﾙ大鳥居や本宮大社の森が一望できる見晴台があり、朽ちて文字が読めなくなってしまった伏拝王子跡の石

碑と並んで、和泉式部供養塔が祀られている。 (4/5)

和泉式部は、紫式部と同時期の平安中期に活躍した二十六歌仙の一人で、小倉百人一首の作者の一人としても有名である。式部が熊野詣の途中、この地まで来たとき、にわかに月の障りとなってしまい、これでは本宮大社に参拝できないと諦め、彼方に見える熊野本宮の森を伏し拝んで、次の一首を詠んだという。《晴やらぬ身の浮き雲のたなびきて月のさわりとなるぞかなしき》 その夜、式部の夢枕に、熊野権現が現れて、《もろともに塵にまじはる神なれば月のさわりもなにかくるしき》と返歌したという。これを聞いた式部は無事熊野詣でを済ませることができたという。

平安時代中期に編纂された法令集『延喜式』では、死と出産と血は、国家的に不浄のものと規定され、女性の生理も不浄なものとされ、大峰山のように今でも女人禁制を守っている寺社もある中、このｴﾋﾟｿｰﾄﾞは、熊野権現はそんなことは気にしない心の広い神であるとの宣伝に使われ、前述のつぼ湯の小栗判官蘇生の奇跡等、熊野権現の御利益を広めた時宗開祖一遍上人を頂点とする時衆達の功績もあって、鎌倉時代になると、現世浄土を求めて熊野に詣でる民衆で溢れ、蟻の熊野詣と揶揄されるほど隆盛になったという。

伏拝王子から熊野本宮大社に至る下り基調の約 3.3km の古道は、鬱蒼とした杉林の中に続く石畳と石段の径で、熊野古道の荘厳な雰囲気をよく残している。TTC 女性陣は、元気一杯で、おしゃべりの方は大いに弾んでいたようだが、足の運びの方は今ひとつ。熊野本宮大社の裏参道から大社社殿に到着したのは、計画より約 1 時間遅れの 12 時半になってしまっていた。熊野古道歩きのｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ等に記載されているｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝが比較的少ないこの区間の標準的な歩行時間は、おおよそ 4km を 1 時間で歩くﾍﾟｰｽ。TTC のｼﾆｱﾒﾝﾊﾞならこのﾍﾟｰｽで歩けるかなと思って、休憩時間を少し長めにとって、このｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸの標準的な歩行時間でｺｰｽﾀｲﾑを設定したが、長年の山歩きで身体に染みついてしまっている TTC の平地の歩行ﾍﾟｰｽ「～3ｋｍ/h」になってしまった。

実はこんなこともあろうかと、午後に予定していた大日越えの古道を湯の峯温泉まで辿る約 1.5 時間のｳｫｰｷﾝｸﾞは割愛する方向で、事前にＳＬと相談してあったので、ﾒﾝﾊﾞに諮って、以後のｳｫｰｷﾝｸﾞは省略することにした。時間を気にしていたのは CL だけで、女性ﾒﾝﾊﾞは時間を気にすることもなくゆった～り・のんびりと熊野古道のｳｫｰｷﾝｸﾞを楽しんでいたようなので、結果良ければすべて良しとしたい。

熊野本宮大社の境内入ると、熊野権現の化身「八咫烏」の幟旗がはためき、緑濃い杉の大樹を背景に、古式ゆかしい檜皮葺の社殿が並ぶ。向かって左の第一社殿は夫須美大神(ｲｻﾞﾅﾐﾉﾐｺﾄ)、第二殿は速玉大神(ｲｻﾞﾅｷﾞﾉﾐｺﾄ)、中央の第三殿が主祭神の家津美御子大神 (ｹﾂﾐﾐｺﾉｵｵｶﾐ、別名；熊野坐神社(ｸﾏﾉﾆﾏｽｼﾞﾝｼﾞｬ)、素盞嗚神(ｽｻﾉｵﾉﾐｺﾄ))、そして、右端の第四殿が天照大神を祀る。我々も参拝作法に則り、左から右に順番に熊野の四神にお参りした。女性ﾒﾝﾊﾞ 2 名が神倉神社を含む熊野四社と那智山青岸渡寺で御朱印をいただいたようだ。

熊野大権現の幟旗が林立する 100 数 10 段ほどの石段を下り、表参道入口の鳥居を潜りでて、熊野本宮大社前の門前街に出て、食事処「しもじ本宮店」で昼食ﾀｲﾑとした。3 名は熊野牛の焼肉ﾗﾝﾁ、5 名は鶏唐揚げの黒酢野菜あんかけﾗﾝﾁを頼んだ。この付近一帯の町並は、平成 23 年の熊野川の大氾濫で、2～3m も水に浸かって、多くの家屋が流されてしまった。現在民家の大半は付近の高台に集団移住し、商店やｵﾌｨｽ等は、まだ真新しい鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造に建て替えられたため、創建以来 2000 年に及ぶ熊野本宮大社の門前町の面影は大きく様変わりしてしまった。

食事の後に、日本一高い大鳥居（高さ 33.9m）が立つ旧社地「大斎原」に立ち寄った。熊野本宮大社（熊野坐神社）が創建された約 2000 年前から明治 22 年までは、社殿は熊野川と音無川の合流地点に広がる中洲「大斎原」（おおゆのはら）にあり、1 万坪の境内に、多くの社殿や能舞台、神楽殿が立ち並んでいたが、明治 22 年の熊野川の大水害で、社殿の大半が壊滅的な被害を受けた。かろうじて残った四社殿を、現在の高台に移築再建したものが、先ほど参拝を済ませてきた熊野本宮大社の社殿である。現在の大斎原には、広大な広場に、大鳥居と旧社地であったことを示す 2 基の石祠があるのみであるが、春には桜が咲き誇るという。往時の参拝者は音無川の流れに入って着物の裾を濡らして(濡れ草履の入堂)、水垢離の業を済ませてから参拝したという。当時の大斎原には船着場が有り、ここから舟で熊野川を下って、新宮の熊野速玉大社に参詣したという。

近くの本宮大社前のﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙからﾊﾞｽに約 1 時間乗車し、新宮駅で勝浦行のﾊﾞｽに乗り換えて、さらにﾊﾞｽに 45 分揺られて JR 勝浦駅前到着。我々はﾊﾞｽを乗り換えるため、終点/始発の新宮駅まで行ってしまったため、数分遅れで 1 便前のﾊﾞｽをのがしてしまった。両ﾊﾞｽが分岐する新宮高校前ﾊﾞｽ停で乗り換えれば、30 分早く勝浦に到着できたのに、ﾊﾞｽの運転士に指摘されるまで気づかなかったのは残念。駅から 7～8 分歩いて勝浦港の船着場からﾎﾃﾙの連絡船に乗って、ﾎﾃﾙ浦島に 5:05pm に到着できた。ﾎﾃﾙ浦島は、総客室数 314 室/収容人数 1564 人の勝浦最大の超ｼﾞｬﾝﾎﾞﾘｿﾞｰﾄﾎﾃﾙだ。10 畳和室 3 室に荷物を置き、早速、夕食前にこのﾎﾃﾙ最大の売りである大洞窟風呂「忘帰洞」を楽しんだ、泉質はｶﾙｼｳﾑ分の多い、濃度の濃いﾅﾄﾘｳﾑ-含硫酸・塩化物泉の源泉掛け流し。洞窟の先に広がる、岩に浪が打ち砕け散る大海原のﾀﾞｲﾅﾐｯｸな景観を楽しんだ。夕食は大宴会場でのﾊﾞｲｷﾝｸﾞ。勝浦漁港に水揚げされたばかりの新鮮な生ﾏｸﾞﾛを客の目の前で解体し

て、食べさせてくれるのが売りで、皆さん新鮮な生ﾏｸﾞﾛの刺身やｽﾃｰｷ等をはじめ、野菜料理 (5/5)
や煮物の他、熊野名物のめ張り寿司等を腹一杯食べ、満腹・満足したようだ。
ﾁｪｯｸｲﾝの際、湯巡りｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰの応募用紙をもらったことも有り（3箇所以上の温泉に入って、ｽﾀﾝﾌﾟをもらうと、記念品(忘帰洞温泉の入浴剤)がもらえる)、夕食後、ﾒﾝﾊﾞ全員が、もう一つの洞窟風呂「玄武洞」や館内にある内風呂の湯巡りをして、記念品をもらったようだ。

◆5/19(金)：本日は、那智の滝を見物して、JR勝浦駅から、12時過ぎの特急に乗車して、厚木に戻るｽｹｼﾞｭｰﾙで、時間的に余り余裕がない。そこで、勝浦駅前発那智大社行のﾊﾞｽを当初予定より30分早い、8:25am発のﾊﾞｽに前倒しすることに決め、朝食を少し早めに済ませ、ﾎﾃﾙ浦島船着場7:35発の連絡船に約5分間乗船し、対岸の勝浦港から勝浦駅前のﾊﾞｽ乗場に余裕をもって到着できた。
JR那智駅近くにある南海の彼方にある補陀洛浄土を目指して上人達が船出した補陀洛航海の出発点として名高い世界遺産「補陀洛山寺」をﾊﾞｽの右手に見ながら進み、大門坂入口でﾊﾞｽを下りた。ここから熊野古道大門坂を、標高差約250m登って、熊野那智大社、青岸渡寺、那智の滝と回る歩行距離2.5kmのｳｫｰｷﾝｸﾞを楽しんで、ﾊﾞｽで往路を勝浦まで戻る半日行程のｳｫｰｷﾝｸﾞを実施した。これまでの3日間で、もっとも天気が良く､気温も一番高かったようだが、湿度も低く、絶好のﾊｲｷﾝｸﾞ日和。歩き始めは、ﾂｱｰ客と重なり、混雑状態で先行きを危惧したが、団体客が歩いたのは、5～6分登って、ﾊﾞｽ道路に合流するわずかな距離のみ。その先まで歩く参拝客は激減し、静寂の熊野古道になった。杉並木の中に続く、急な階段を35分ほど息を切らしながら登ると、熊野那智大社のﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙがある観光ｾﾝﾀｰに到着した。途中、平安時代の旅装束をした女性が一人登っていくのを見送った。貸衣装を着ての熊野詣なのか、地元観光協会のｲﾍﾞﾝﾄｶﾞｰﾙなのかわ分からないが、木漏れ日が射す杉並木の大門坂を登る平安時代の女性の旅姿は、周囲によくﾏｯﾁして実に美しい。
さらに、数100段の表参道の石段を約15分掛けて登り、鳥居を潜ると、眺望抜群の高台に朱色に輝く熊野那智大社の社殿と6棟の本殿に行き着く。本殿は熊野造で、夫須美大神（ｲｻﾞﾅﾐﾉﾐｺﾄ）が主祭神で、その他に熊野十二所権現が祀られている。ここには他の2大社にはない那智の滝を祀る社もある。境内には神武天皇が大和国に入る際に道案内をしたとされる3本足のカラス「八咫烏」が石に姿を変えたといわれる鳥石や、樹齢850年の大楠のご神木等がある。先ほど大門坂でやり過ごした平安時代の旅装束姿の女性に再会したので、女性陣のﾘｸｴｽﾄにより、お願いして一緒に写真に入ってもらった。参拝を済ませ、隣接する西国33番霊場1番札所「青岸渡寺」を参拝。御神水で喉を潤してから、境内を東に進んで、遠方に那智の滝と色朱色に輝く三重塔を見下ろし、しばし絶景に魅入った。
那智の滝を眺めながら、茶店の前を通り過ぎ、急な石段を下って、三重塔の傍を通って防災道路の急坂を下り、最後は、鎌倉時代に作られたと言われる自然石の古びた急な石段を5分ほど下ると、那智の滝前ﾊｽ停に降り立つ。飛瀧神社の鳥居を潜って、10数段の石段を登って100mほど進んだ先の岩壁に日本三名瀑のひとつ、落差133mの那智の滝がﾀﾞｲﾅﾐｯｸに流れ落ちている。このところ好天続きなので、水量が少ないとではとの予想に反し、なんとなんと水量豊かで、豪快に流れ落ちている那智の滝に出会え、感動した。なお、日本三名瀑とは、那智の滝の他、日光華厳滝(落差98m)と奥久慈袋田の滝（落差121m)を言う。
熊野那智大社の起源は、那智の大滝を信仰する自然崇拝に始まり、仁徳天皇の4世紀頃に、現在地に社殿が移されたという。また、丁度その頃、那智の浜に流れ着いたｲﾝﾄﾞの僧「裸形」上人によって、滝壺から如意輪観音像が見つけ出され、草庵を結んでこの観音像を安置したのが青岸渡寺の始まりだと言われている。また、観世音菩薩は三十三の姿に変身して、人々を救済すると考えられ、西国三十三観音霊場巡り等の観音信仰が広まった(青岸渡寺は33観音霊場の1番札所)。11世紀の平安時代中期になると、白河法皇をはじめとする多くの皇族が現世浄土を目指して熊野詣をするようになり、熊野御幸と言われたという。鎌倉時代になると、熊野詣は貴族や武士だけでなく一般民衆にまで広がり、「蟻の熊野詣」と呼ばれるほど賑わったという。
ﾊﾞｽで勝浦駅に戻り、駅前の軽食処でｶﾚｰﾗｲｽの昼食を済ませ、駅前の魚介類専門店で、マグロの角煮や鰹の酒盗等の海産物をオミヤゲに買い込み、勝浦駅12：24発/名古屋行のﾜｲﾄﾞﾋﾞｭｰ南紀6号に乗車して、帰途についた。
今回、TTC主催としては初めての熊野古道ｳｫｰｷﾝｸﾞで、日程の都合や熊野三山詣も完遂するという目的も合わせて達成するため、少々総花的なｺｰｽしか組めなかったが、ゆった～り山行らしく､それなりにのんびり旅が出来たのではないかと思う。
もし、再度実施する機会があるとすれば、熊野詣でのﾒｲﾝﾙｰﾄであった中辺路を中心に古の史跡を訪ねて歩き、旧熊野坐神社があった大斎原から熊野川を速玉大社のある新宮まで、舟で下る体験もしてみたい。また、湯の峯温泉に隣接する川湯温泉で、河原の砂利を掘って、my露天風呂を作って、温泉に浸かるのも面白い体験ではないかと思う。 以上